

令和3年度第75回栃木県芸術祭文芸賞審査結果（創作部門）

- 応募総数 23編（25編）
○ 入賞点数 8編（8編）（ ）内は昨年度実績

【審査寸評】

○作品総括

今回は昨年より2編の減だったが、コロナ禍の下でも創作を書き続ける静かな意欲を高く評価したい。書き慣れた作者、新しい作者、それぞれに今後を期待させる頼もしさが感じられた。

○文芸賞「しろいかみさま」

祖母の言葉に支えられた私が、不思議な体験を経て自分の居場所を見つけていく物語。随所に見られる女子高生の心理描写が優れていた。

○準文芸賞「晩夏の蝸」

救急搬送された妻は退院後、夫のもとでなく娘夫婦の居宅に身を寄せる。救急搬送まで手を打たなかった夫の反省。妻の帰りを待つ夫の心の再生がよかった。

○準文芸賞「ゴン」

犬好きを思わせる作品。祖母を亡くして元気がなくなった祖父にゴンをプレゼントするが、祖父の亡き後、ゴンを通して知る祖父の思いが伝わってすばらしい。

【入賞者名・作品名】

○ 文 芸 賞

いのはな かおる
位ノ花 薫（日光市） 「しろいかみさま」

○ 準文芸賞

よしい たん
芳井 坦（宇都宮市） 「晩夏の蝸」

よしだ みのる
吉田 稔（宇都宮市） 「ゴン」

○ 文芸奨励賞

いしざき けいこ
石寄 敬子（宇都宮市） 「ブランコにゆられて」

おおいずみ ようこ
大泉 耀子（宇都宮市） 「アイコンの囁き」

しまだ とみこ
島田 トミ子（宇都宮市） 「雲上のフィルム」

すずき ゆかり
鈴木 友加里（那須塩原市） 「吸殻」

てらさき あきお
寺崎 暁生（鹿沼市） 「あんこときなこ」

○ U25賞

該 当 な し

令和3年度第75回栃木県芸術祭文芸賞審査結果（随筆部門）

- 応募総数 39編（43編）
- 入賞点数 8編（8編）（ ）内は昨年度実績

【審査寸評】

- 作品総括
国際的、芸術的な題材をテーマとした作品が多かった。
話し言葉と文章語はきちんと区別して書くべきである。また、一つの文章の中に同じ表現はできるだけ使わないようにしたい。
事実を羅列するだけでなく、その時々の実感を率直に表現することを心掛けてほしい。
- 文芸賞「麗子の肩かけ」
スーパーの帰り道に通りがかった新築の建物に心ひかれた作者が、廊下の籐椅子にかけられた肩かけに目をとめて、岸田劉生の「麗子像」へと展開する手法が見事。
- 準文芸賞「韓国の母」
新聞記事に端を発した20年前の韓国人青年の母の「日本と韓国の架け橋」になりたいという思いに、作者が真摯に向き合った作品。
- 準文芸賞「外れた笛の音」
宿題の縦笛の練習に懸命に取り組んだが発表の際に失敗してしまう。その過程が生き生きと描かれている。

【入賞者名・作品名】

- 文芸賞
にれぎ けいこ 榎木 佳子（宇都宮市） 「麗子の肩かけ」
- 準文芸賞
はしもと さちこ 橋本 幸子（那須塩原市） 「韓国の母」
やまぐち あきら 山口 昭（宇都宮市） 「外れた笛の音」
- 文芸奨励賞
こくぼ はるこ 小久保 治子（宇都宮市） 「やると楽しい」
といだ きみこ 戸井田 公子（宇都宮市） 「掃除の時間」
はたけやま よしこ 畠山 嘉子（那須町） 「森に住む」
たけざわ みえこ 竹澤 美恵子（宇都宮市） 「赤い折り鶴」
しまだ とみこ 島田 トミ子（宇都宮市） 「コロナ禍のサクソフオーン」
- U25賞
該当なし

令和3年度第75回栃木県芸術祭文芸賞審査結果（詩部門）

○ 応募総数 30編（23編）

○ 入賞点数 7編（7編）（）内は昨年度実績

【審査寸評】

○ 作品総括

応募数は昨年より7点の増。力作も多く作品のレベルは高かった。また、自らを振り返る内省的な作品が多く見られた。

作品の結晶度に高い評価を与えられるものがなく、文芸賞については残念ながら該当なしとした。

○ 文芸賞

該当なし

○ 準文芸賞「耳を澄ます」

現代詩らしい作品で批評性もあり、高く評価できる。

○ 準文芸賞「ひとりで」

行間のとり方が適切であり、言葉が生き生きとしている。

【入賞者名・作品名】

○ 文芸賞

該当なし

○ 準文芸賞

なかむら まり

中村 真理（小山市） 「耳を澄ます」 他1編

こばやし としこ

小林 トシ子（佐野市） 「ひとりで」 他1編

○ 文芸奨励賞

あくつ たみこ

阿久津 多美子（宇都宮市） 「枯れかけてもなお」 他1編

ほそしま ゆうじ

細島 裕次（真岡市） 「通夜の旅」 他1編

いわもと くみこ

岩本 久美子（鹿沼市） 「爽籟」 他1編

おおはた こうへい

大畑 耕兵（市貝町） 「母の手押し車」 他1編

すけがわ としお

助川 俊夫（宇都宮市） 「白い椅子」 他1編

○ U25賞

該当なし

令和3年度第75回栃木県芸術祭文芸賞審査結果（短歌部門）

- 応募総数 51編（59編）
○ 入賞点数 7編（9編）（ ）内は昨年度実績

【審査寸評】

○ 作品総括

全体的に意欲作が多く、視点の新鮮さが目立ったが、瑕疵のない十首の揃った作品が少なかった。

日常詠を離れた新しい試みの作品が多かったが、熟しきれず文芸賞に届く作品はなかった。

○ 文芸賞

該当なし

○ 準文芸賞「境界に吹く風」

従来の短歌的抒情から少し視点を変えたところが魅力的。作品の構成力、表現力が評価された。

○ 準文芸賞「鯨」

地球環境の変化というテーマに対し、視点の大きさを自己に引きつけ表現しており、説得力がある。

【入賞者名・作品名】

○ 文芸賞

該当なし

○ 準文芸賞

ただき
多田 木のり（小山市） 「境界に吹く風」
ひろさき あい
広崎 愛（日光市） 「鯨」

○ 文芸奨励賞

たかまつ みえこ
高松 三枝子（那須塩原市） 「八十の近未来」
すずき まさあき
鈴木 政明（市貝町） 「転生の星」
たなあみ じゅんこ
田名網 順子（足利市） 「不安を生きる」
くりた じゅんこ
栗田 準子（足利市） 「ガンダムの林」
ひらつか ゆうすけ
平塚 祐輔（宇都宮市） 「醇きころで」

○ U25賞

該当なし

令和3年度第75回栃木県芸術祭文芸賞審査結果（俳句部門）

○ 応募総数 62編 （62編）

○ 入賞点数 8編 （8編）（ ）内は昨年度実績

【審査寸評】

○ 作品総括

応募作品はいずれも採れる句、採れない句が混在しており、審査には苦労した。誤字、脱字、送り仮名等の間違いは比較的少なく、全体的にレベルアップしている感じだ。

○ 文芸賞「八十路」

「八十路」は八十歳のこと。年齢に達してこれからの生き方が平明に詠まれている。素直な作品が好感を得て審査員全員からの推薦を得た。「朝涼を歩いて日々を新たにす」「遊ぶ風入れて冷房なき暮し」などは日常生活そのもの。これからの日々を豊かに過ごされることであろう。

○ 準文芸賞「青田風」

個々の作品は一句一句異なった場面を詠んだもの。全体として句の眼目が的確でしっかりした骨組みである。

○ 準文芸賞「源流」

全体に物の本質を巧みに捉えており、詩的な断定が効果を上げている。但し、言葉に頼り過ぎた句もあり、惜しまれる。

【入賞者名・作品名】

○ 文芸賞

たが よしろう
多賀 与四郎 （さくら市） 「八十路」

○ 準文芸賞

なかむら くにじ
中村 國司 （宇都宮市） 「青田風」

うしまる ゆきひこ
牛丸 幸彦 （栃木市） 「源流」

○ 文芸奨励賞

とだ とみこ
戸田 富美子 （壬生町） 「讚美歌」

たなか けいこ
田中 桂子 （栃木市） 「艶やかな風」

もり かなえ
森 加名恵 （大田原市） 「癌告知」

しずく さちこ
雫 幸子 （那須烏山市） 「我鬼忌」

きしだ うどう
岸田 雨童 （宇都宮市） 「ととせの春」

○ U25賞

該当なし

令和3年度第75回栃木県芸術祭文芸賞審査結果（川柳部門）

○ 応募総数 36編（45編）

○ 入賞点数 8編（8編）（ ）内は昨年度実績

【審査寸評】

○ 作品総括

昨年より2割減となる応募数であったが、作品のレベルは全体的に揃っていた。ただ、暗号句と思われる作品が数点あり、選考から外された。また、新たな応募者が見られたものの、応募数の増加に繋がらなかったことが残念であった。

○ 文芸賞「好奇心」

課題に対して言い尽くされている言葉も見られたが、全体として題に沿った作品としてまとめられている。

○ 準文芸賞「余生」

題に即し、余生の一日の流れをおもむくままに平易に表現した作品となっている。一部、造語と思われる所があったが、良くまとまっている。

○ 準文芸賞「恋」

応募作品中唯一、趣の違う作品で、願望を詠んだ句として異彩を放っている。初句から終句の流れがまとまった作品である。

【入賞者名・作品名】

○ 文芸賞

おおき りゅうごろう
大樹 龍五郎（宇都宮市） 「好奇心」

○ 準文芸賞

たなか らいせん
田中 来川（日光市） 「余生」

やすい たかこ
安井 貴子（日光市） 「恋」

○ 文芸奨励賞

こぼり まさし
小堀 昌司（神奈川県横浜市） 「声」

ばば はるか
馬場 はるか（栃木市） 「風の道」

なかにし しげとし
中西 茂年（宇都宮市） 「歳なりに」

くぼた あきえ
久保田 昭枝（足利市） 「ファンファーレ」

いちむら きよ
市村 キヨ（真岡市） 「自肅に寄り添う」

○ U25賞

該当なし